

川崎市建築物環境配慮制度受付番号 20049

建築物名称	(仮称)三進工業本社ビル改築工事
建築主	三進工業株式会社 代表取締役 取締役社長 渡辺 純
建築物の所在地	川崎市川崎区小島町4番63、4番64
設計者氏名、建築士事務所名	榊原 正之 株式会社KAN設計 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	5,007.86㎡
用途	事務所、工場
構造	鉄骨造
階数	地上8階
工事完了年月	令和4年5月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	太陽光発電

Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency CASBEE川崎

■使用評価マニュアル: CASBEE-川崎2017年版

使用評価ソフト: CASBEE-川崎2017(v.3.1)

評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)三進工業本社ビル改築工事	階数	地上8F
建設地	神奈川県川崎市川崎区小島町4番63、4番64	構造	S造
用途地域	工業専用地域	平均居住人員	120 人
地域区分	6地域	年間使用時間	3,000 時間/年(想定値)
建物用途	事務所,工場,	評価の段階	
竣工年	2022年5月 竣工	評価の実施日	2021年1月12日
敷地面積	6,702 m ²	作成者	榊原 正之
建築面積	1,335 m ²	確認日	2021年1月26日
延床面積	5,008 m ²	確認者	榊原 正之

外観パース等
パースの公表を希望される場合は
図を貼り付けてください

2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.5

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂ (温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%
②建築物の取組み 73%
③上記+②以外の 73%
④上記+ 73%

(kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5
Q1 室内環境: 3
Q3 室外環境 (敷地内): 2
LR1 エネルギー: 1
LR2 資源・マテリアル: 1
LR3 敷地外環境: 1

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 3.0

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.7

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.9

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.3

LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.6

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.4

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高点のスコア合計	重点項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
緑の保全・回復(G)		Gの平均点	2.6
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出	緑化率10.7%を確保しています(川崎市緑化協議)	1.9/4.3	2.2
2 まちなみ・景観への配慮	周囲への圧迫感を軽減し、緑地を設け良好な環境を形成しています		
3 敷地内温熱環境の向上	敷地内温熱環境の向上		
3.2 敷地内温熱環境の向上	屋上緑化を採用しています		
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善	太陽光パネルを採用し自然エネルギーを利用しています	0.5/0.8	3.0
地球温暖化防止対策の推進(W)		Wの平均点	3.1
Q-1 ■ 室内環境対策			
2 2.1 2.1.2 外皮性能	事務所棟の屋根・外壁に断熱施工、窓にlow-E複層A12を採用しています	0.4/0.7	3.0
3 3.1 3.1.3 昼光利用設備			
3.2 3.2.1 昼光制御			
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出	緑化率10.7%を確保しています(川崎市緑化協議)	1.1/2.3	2.3
3 敷地内温熱環境の向上	事務所棟の室外機を屋上に設置しています		
3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制	BEI=0.60を達成しています	4.4/5.0	4.4
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護			
2 非再生性資源の使用量削減	地業工事に砕石(再生材)を採用しています	2.8/4.7	3.0
3 3.2 フロン・ハロンの回避			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善	建物間の風通しを配慮して建物高さ、隣棟間を計画しています	0.5/0.8	3.0
資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)		Rの平均点	3.0
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 部品・部材の耐用年数		0.3/0.5	3.0
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護			
2 非再生性資源の使用量削減	地業工事に砕石(再生材)を採用しています	2.4/4.0	3.0
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.3 地域インフラへの負荷抑制		0.2/0.4	3.0
ヒートアイランド現象の緩和(H)		Hの平均点	3.2
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出	緑化率10.7%を確保しています(川崎市緑化協議)	1.1/2.3	2.3
3 敷地内温熱環境の向上	屋上緑化を採用しています		
3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制	BEI=0.60を達成しています	4.4/5.0	4.4
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善	太陽光パネルを採用し自然エネルギーを利用しています	0.5/0.8	3.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **3.1**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
建設段階			
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数		0.1/0.1	3.0
修繕・更新・解体段階			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
2 2.2 既存建築躯体等の継続利用		0.7/1.2	3.0
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			
運用時のエネルギー			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制	BEI=0.60を達成しています	4.4/5.0	4.4
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

スコアシート		重点項目				環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
		G	W	R	H		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質										3.0	
Q1 室内環境							0.37		-	3.7	
1 音環境						3.6	0.15		-	3.6	
1.1 室内騒音レベル						3.0	0.40	3.0	-		
1.2 遮音						4.2	0.40		-		
1 開口部遮音性能						5.0	0.60	3.0	-		
2 界壁遮音性能						3.0	0.40	3.0	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						3.0	-	3.0	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						3.0	-	3.0	-		
1.3 吸音						4.0	0.20	3.0	-		
2 温熱環境						3.6	0.35		-	3.6	
2.1 室温制御						3.0	0.50		-		
1 室温						3.0	0.38	3.0	-		
2 外皮性能			W			3.0	0.25	3.0	-		
3 ゾーン別制御性						3.0	0.38		-		
2.2 湿度制御						3.0	0.20	3.0	-		
2.3 空調方式						5.0	0.30	3.0	-		
3 光・視環境						3.5	0.25		-	3.5	
3.1 昼光利用						4.2	0.30		-		
1 昼光率						5.0	0.60	3.0	-		
2 方位別開口							-	3.0	-		
3 昼光利用設備			W			3.0	0.40	3.0	-		
3.2 グレア対策						3.0	0.30		-		
1 昼光制御			W			3.0	1.00	3.0	-		
3.3 照度						4.0	0.15	3.0	-		
3.4 照明制御						3.0	0.25	3.0	-		
4 空気質環境						4.2	0.25		-	4.2	
4.1 発生源対策						5.0	0.50		-		
1 化学汚染物質						5.0	1.00	3.0	-		
4.2 換気						3.0	0.30		-		
1 換気量						3.0	0.33	3.0	-		
2 自然換気性能						3.0	0.33	3.0	-		
3 取り入れ外気への配慮						3.0	0.33	3.0	-		
4.3 運用管理						4.0	0.20		-		
1 CO ₂ の監視						3.0	0.50		-		
2 喫煙の制御						5.0	0.50		-		

Q2 サービス性能					—	0.30	-	-	2.9
1 機能性									2.8
1.1 機能性・使いやすさ									3.0
1	広さ・収納性				3.0	0.33	3.0	-	
2	高度情報通信設備対応				3.0	0.33	3.0	-	
3	バリアフリー計画				3.0	0.33	-	-	
1.2 心理性・快適性									3.0
1	広さ感・景観				3.0	0.33	3.0	-	
2	リフレッシュスペース			2F食堂内にリフレッシュスペース確保、自販機設置	5.0	0.33	-	-	
3	内装計画				1.0	0.33	-	-	
1.3 維持管理									2.5
1	維持管理に配慮した設計				3.0	0.50	-	-	
2	維持管理用機能の確保				2.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性									3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振									3.0
1	耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80	-	-	
2	免震・制震・制振性能				3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数									3.0
1	躯体材料の耐用年数		R		3.0	0.20	-	-	
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔		R		2.0	0.20	-	-	
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔		R		3.0	0.10	-	-	
4	空調換気ダクトの更新必要間隔		R		3.0	0.10	-	-	
5	空調・給排水配管の更新必要間隔		R		4.0	0.20	-	-	
6	主要設備機器の更新必要間隔		R		3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性									3.0
1	空調・換気設備				3.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備				2.0	0.20	-	-	
3	電気設備				3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法			耐震Aクラス	4.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備				3.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性									3.1
3.1 空間のゆとり									4.0
1	階高のゆとり			事務所棟:1・2・4階4.0m、3階4.2m、5・6階3.9m、7階3.83m、8F3.8m	4.0	0.60	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ			壁長さ比率:事務所0.29、工場0.16<0.3	4.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり									3.0
3.3 設備の更新性									2.6
1	空調配管の更新性				3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性				1.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性				3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性				3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性				3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保				3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)									—
1 生物環境の保全と創出				G	W				H
2 まちなみ・景観への配慮				G					
3 地域性・アメニティへの配慮									
3.1 地域性への配慮、快適性の向上									
3.2 敷地内温熱環境の向上				G	W				H

LR 建築物の環境負荷低減性										3.6	
LR1 エネルギー										4.4	
1	建物外皮の熱負荷抑制	W		H	BPI _m =0.66	5.0	0.20	-	-	-	5.0
2	自然エネルギー利用	W		H		3.0	0.10	-	-	-	3.0
3	設備システムの高効率化	W		H	[BEI][BEI _m] = 0.60	5.0	0.50	-	-	-	5.0
4 効率的運用						3.0		0.20		3.0	
集合住宅以外の評価						3.0		1.00			
4.1	モニタリング	W		H		3.0	0.50	-	-	-	
4.2	運用管理体制	W		H		3.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価						3.0		-			
4.1	モニタリング	W		H		3.0	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制	W		H		3.0	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル										3.0	
1 水資源保護		W		R		3.0		0.20		3.0	
1.1 節水						3.0		0.40			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用						3.0		0.60			
1	雨水利用システム導入の有無					3.0		0.70			
2	雑排水等利用システム導入の有無					3.0		0.30			
2 非再生性資源の使用量削減						3.0		0.60		3.0	
2.1 材料使用量の削減		W		R		2.0		0.10			
2.2 既存建築躯体等の継続使用		W		R		3.0		0.20			
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		W		R		3.0		0.20			
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		W		R	地業工事に砕石(再生材)使用	3.0		0.20			
2.5 持続可能な森林から産出された木材		W		R		2.0		0.10			
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		W		R	躯体+軽鉄+PB(分別が容易)	4.0		0.20			
3 汚染物質含有材料の使用回避						3.0		0.20		3.0	
3.1 有害物質を含まない材料の使用						3.0		0.30			
3.2 フロン・ハロンの回避						3.0		0.70			
1	消火剤	W				-		-			
2	発泡剤(断熱材等)	W				3.0		0.50			
3	冷媒	W				3.0		0.50			
LR3 数地外環境										3.3	
1 地球温暖化への配慮		W			ライフサイクルCO2排出率:73%	4.0		0.33		4.0	
2 地域環境への配慮						2.9		0.33		2.9	
2.1 大気汚染防止						3.0		0.25			
2.2 温熱環境悪化の改善		G	W	H		3.0		0.50			
2.3 地域インフラへの負荷抑制						2.7		0.25			
1	雨水排水負荷低減			R		3.0		0.25			
2	汚水処理負荷抑制			R		3.0		0.25			
3	交通負荷抑制			R		2.0		0.25			
4	廃棄物処理負荷抑制			R		3.0		0.25			
3 周辺環境への配慮						3.1		0.33		3.1	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止						3.0		0.40			
1	騒音					3.0		1.00			
2	振動					-		-			
3	悪臭					-		-			
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制						3.0		0.40			
1	風害の抑制					3.0		0.70			
2	砂塵の抑制					3.0		-			
3	日照障害の抑制					3.0		0.30			
3.3 光害の抑制						3.7		0.20			
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				光害対策がドライブインの過半満足、広告物照明なし	4.0		0.70			
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策					3.0		0.30			